



2020年12月期

第2四半期決算説明

2020年8月7日

SBSホールディングス株式会社

■ 目次

■ 2020年12月期 第2四半期決算概要 及び 通期の見通し

■ SBSグループの成長戦略

**2020年12月期
第2四半期決算概要
および
通期見通し**

執行役員財務部長 遠藤 隆

20年12月期2Q 連結業績 [対前年同期比]

2

(単位:百万円)

	19年度2Q		20年度2Q			
	実績値	構成比	実績値	構成比	増減額	増減率
売上高	126,944	100%	129,139	100%	2,195	1.7%
営業利益	5,547	4.4%	6,243	4.8%	695	12.5%
経常利益	5,472	4.3%	6,277	4.9%	805	14.7%
当期純利益	3,356	2.6%	4,131	3.2%	775	23.1%

20年12月期2Q 連結業績 [対予想比]

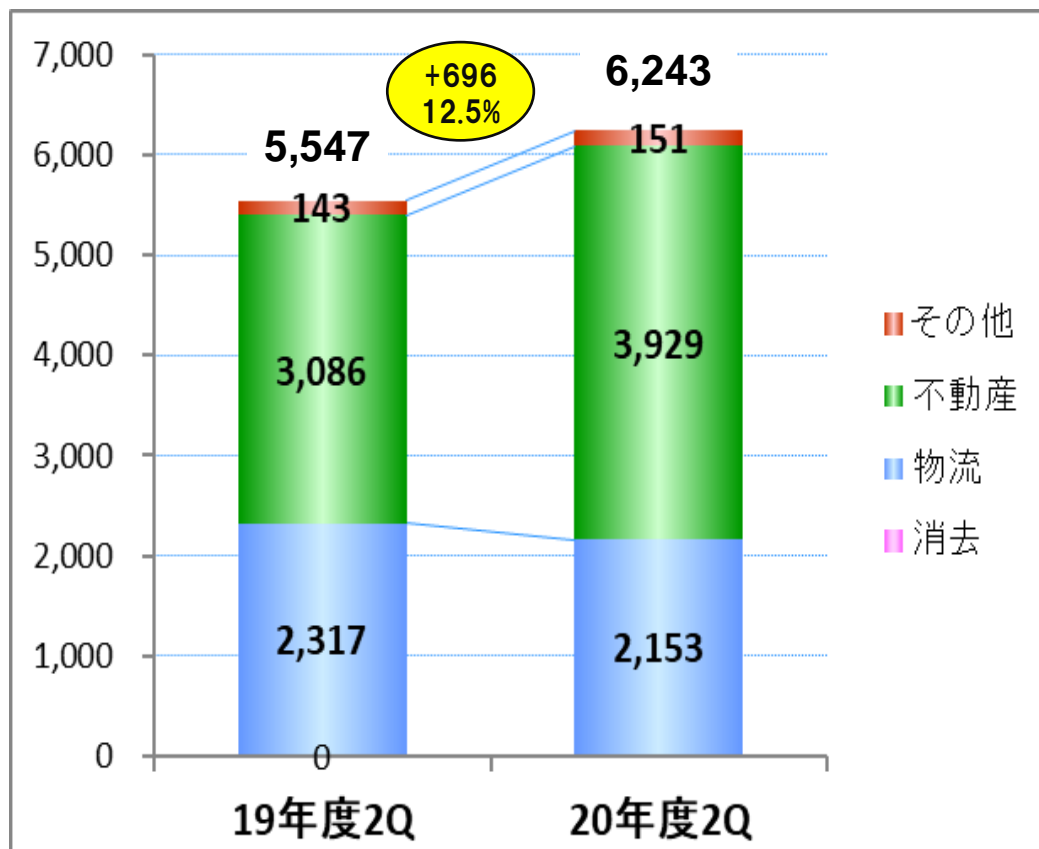
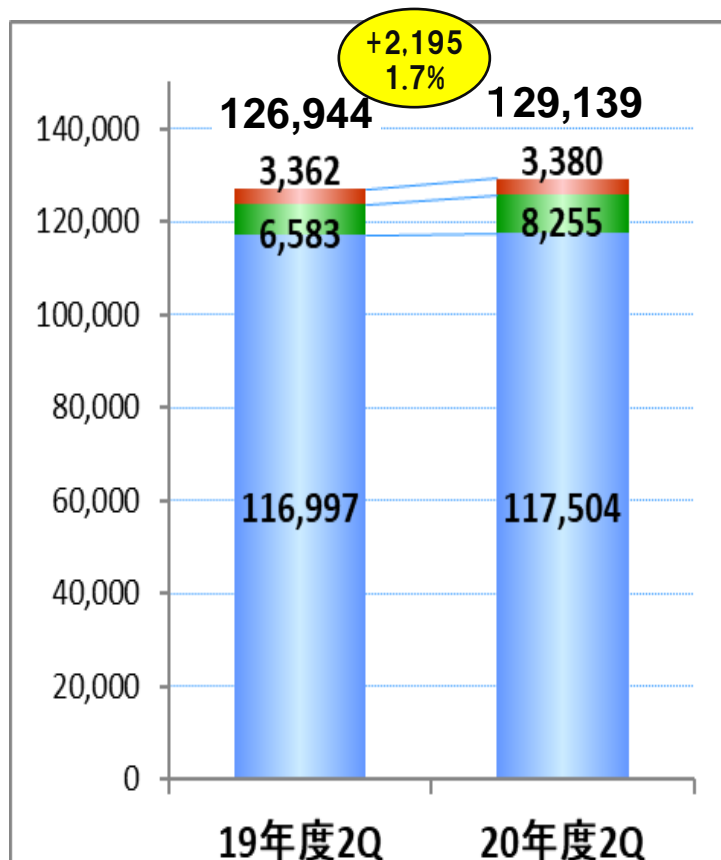
(単位:百万円)

	20年度2Q					
	予想値	構成比	実績値	構成比	差異額	達成率
売上高	132,000	100%	129,139	100%	△2,860	97.8%
営業利益	6,400	4.8%	6,243	4.8%	△156	97.6%
経常利益	6,300	4.8%	6,277	4.9%	△22	99.7%
当期純利益	3,800	2.9%	4,131	3.2%	331	108.7%

セグメント別業績 [対前年同期比]

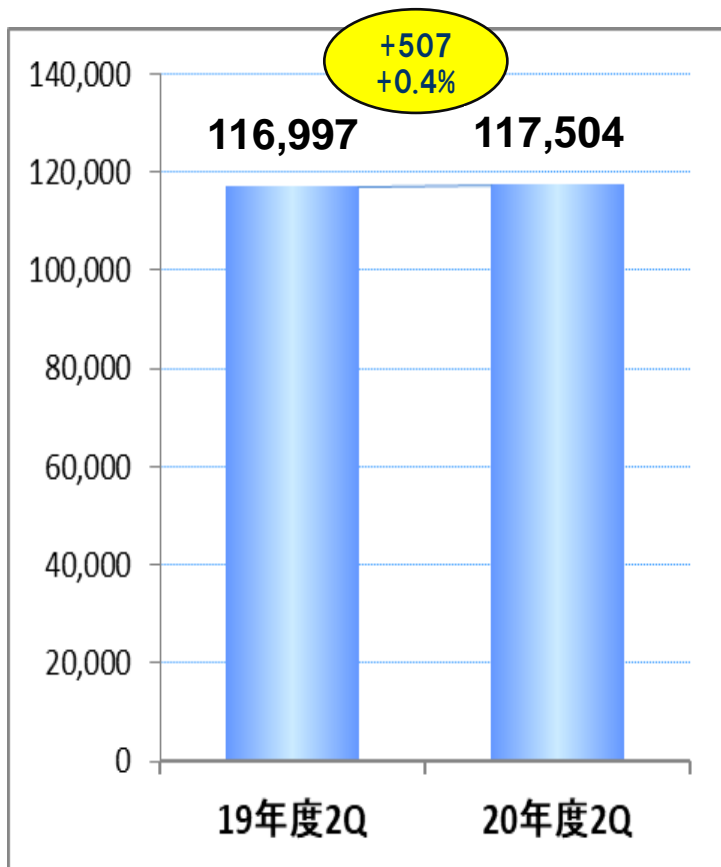
連結売上高 (単位：百万円)

連結営業利益 (単位：百万円)

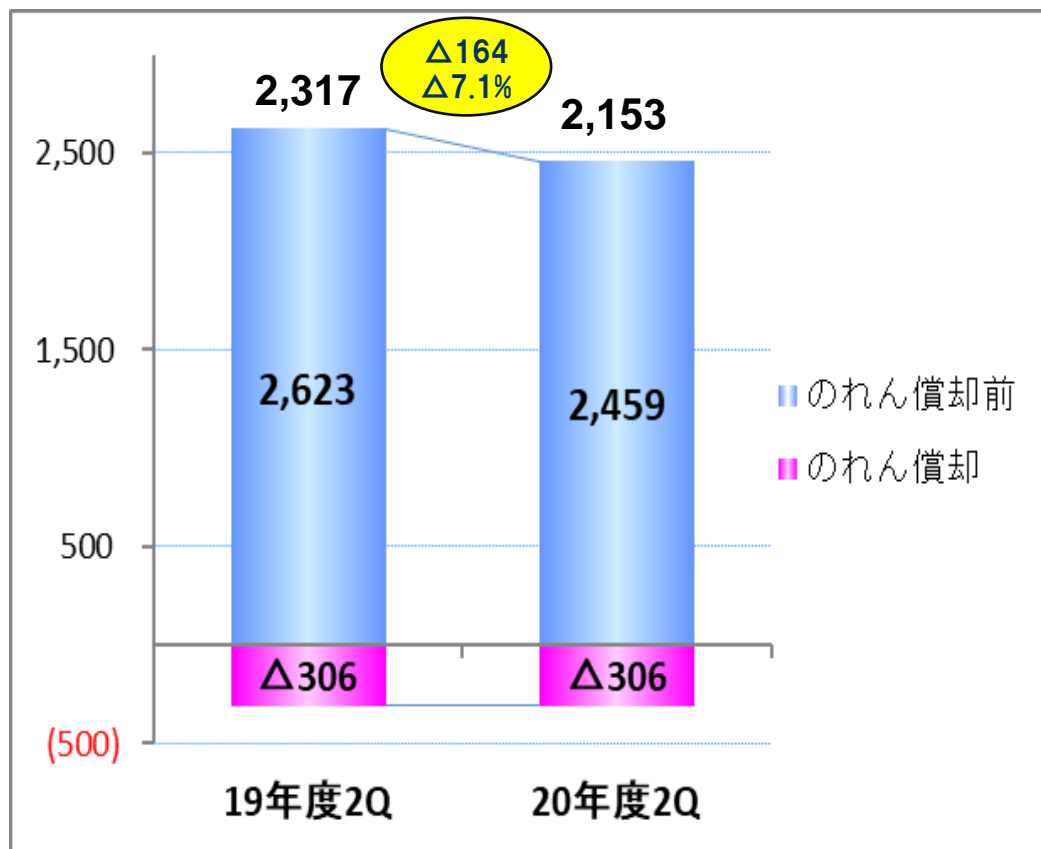


- その他
- 不動産
- 物流
- 消去

連結売上高 (単位：百万円)



連結営業利益 (単位：百万円)



物流セグメント売上高 [増減分析]

(単位：億円)

19年2Q

1,169 億円

新型コロナウイルス感染拡大の影響
(食品需要の拡大、宅配へのシフトなどプラス面)

+ 20

新設拠点の稼働による増収

+ 7

B to Cを含め既存顧客の物流増等

+ 29

新型コロナウイルス感染拡大の影響
(企業間物流の停滞、海外の供給網混乱などマイナス面)

△51

20年2Q

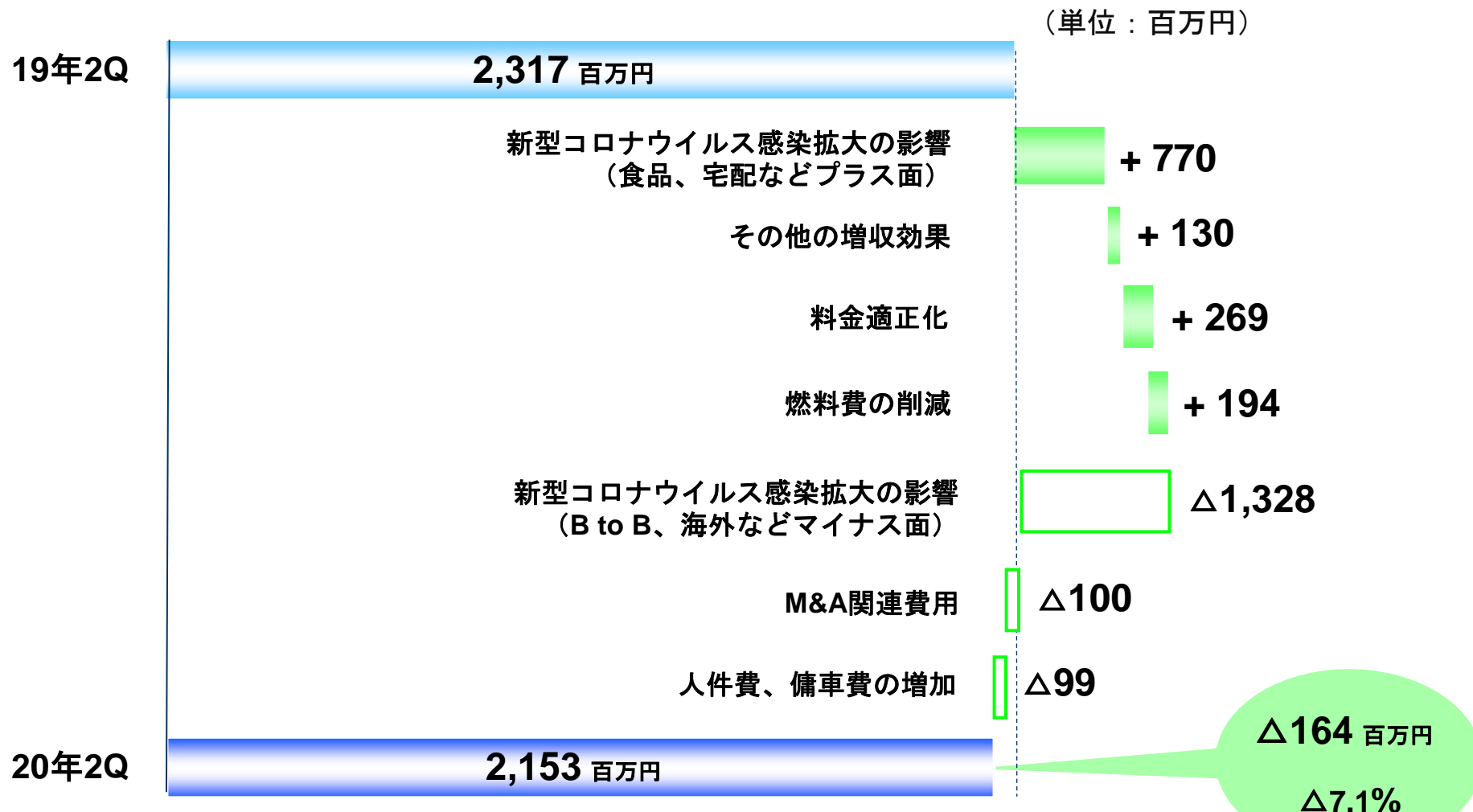
1,175 億円

+ 5 億円

+ 0.4%

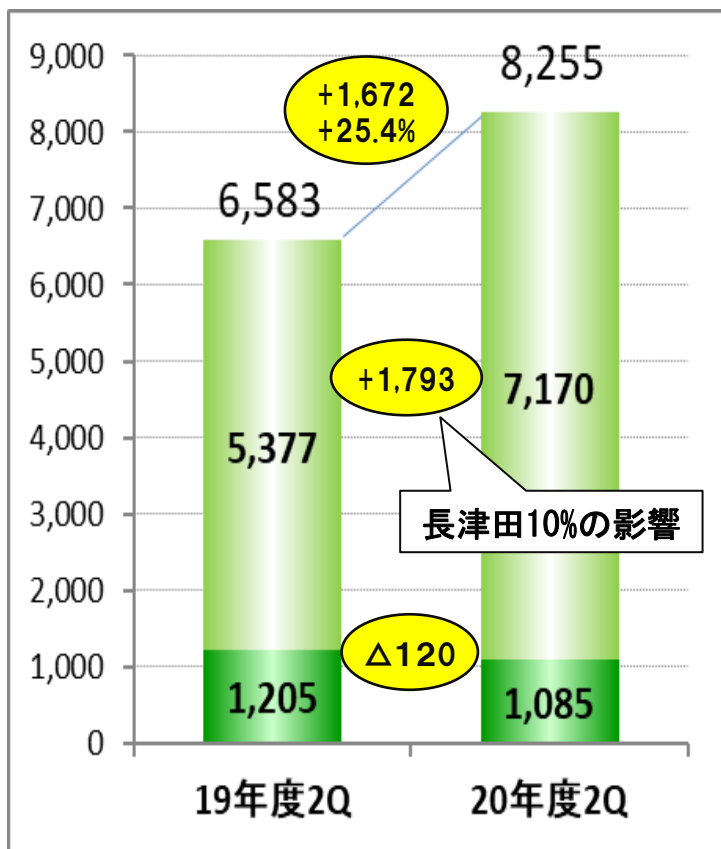
コロナ禍の影響で製造業向けや百貨店、観光・外食関連が大幅減となるも生活必需品や宅配の伸びによって吸収

物流セグメント営業利益 [要因分析]

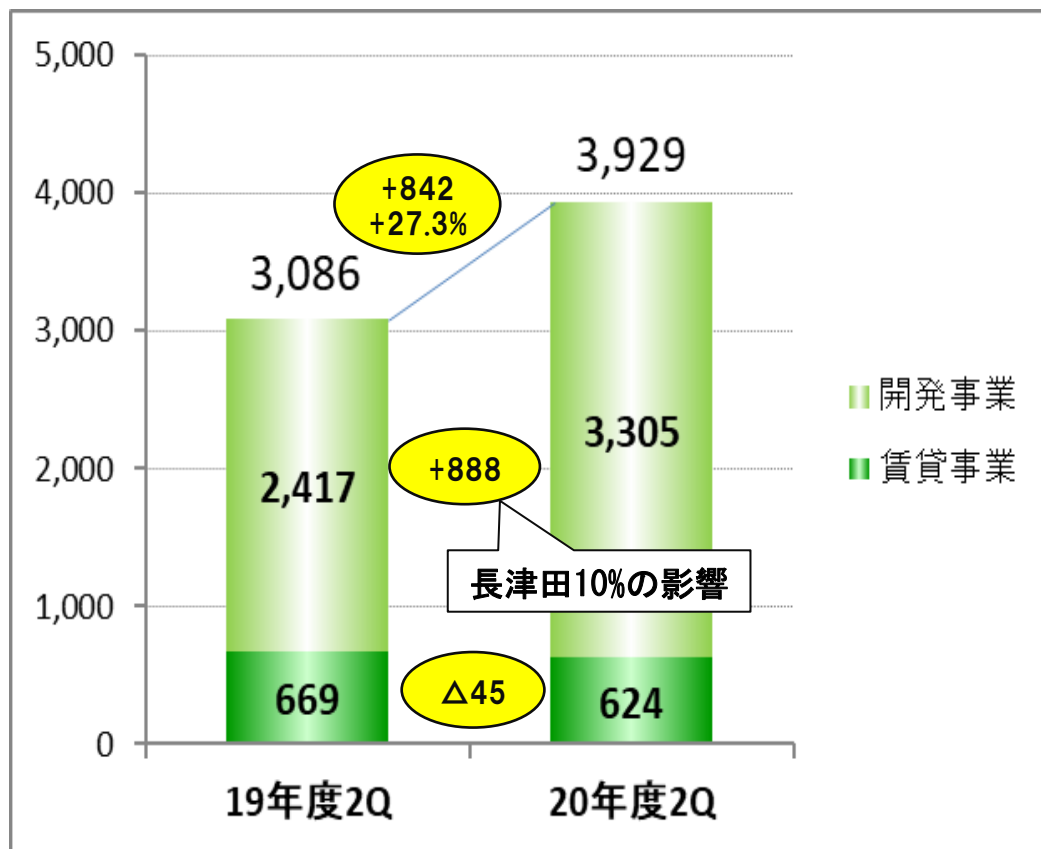


感染拡大に伴う企業間物流停滞のマイナス影響が大きく、緊急事態宣言下の巣ごもり消費特需ではカバーできず営業減益

連結売上高 (単位：百万円)



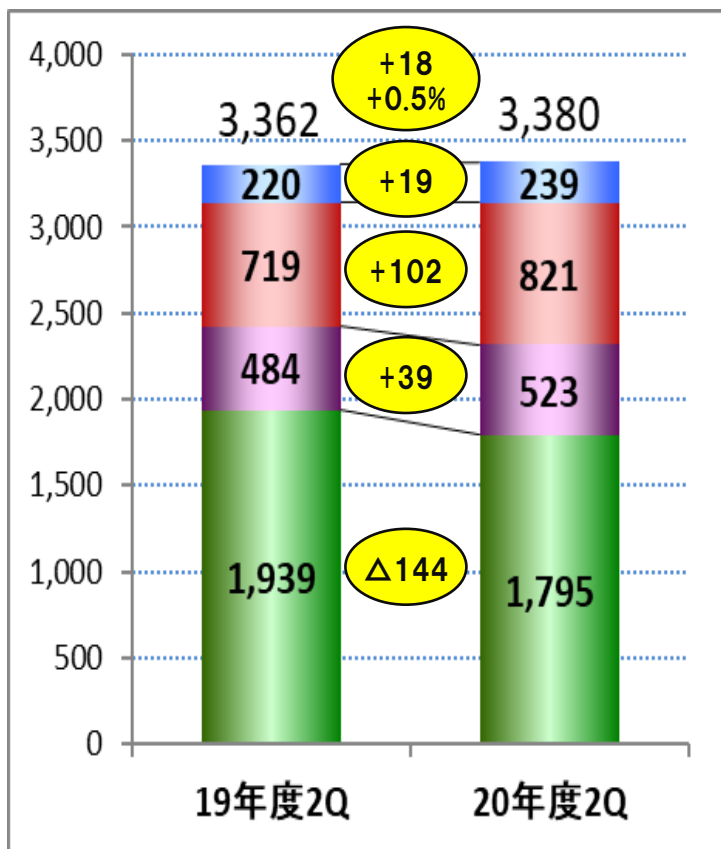
連結営業利益 (単位：百万円)



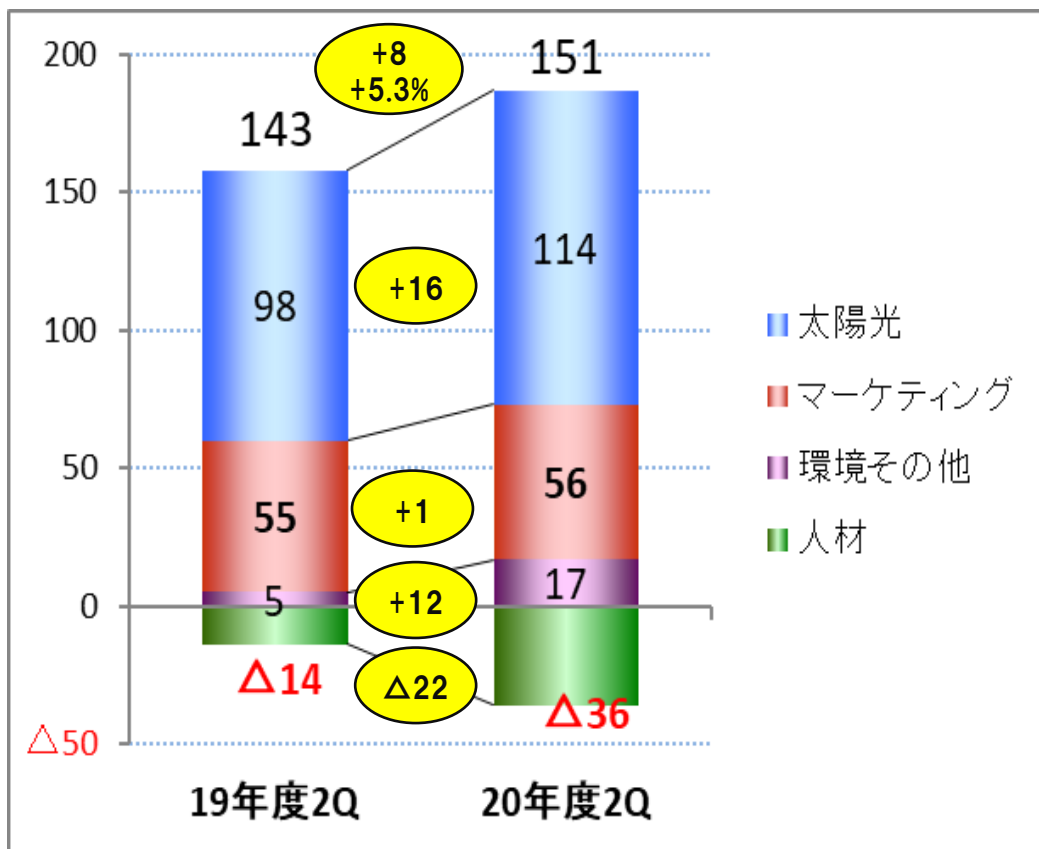
※ 開発事業：物流施設を建設し機関投資家等に売却（流動化）する事業
 ※ 賃貸事業：保有する物流施設、オフィスビル、レジデンス等を賃貸する事業

■ その他セグメント [売上高・営業利益]

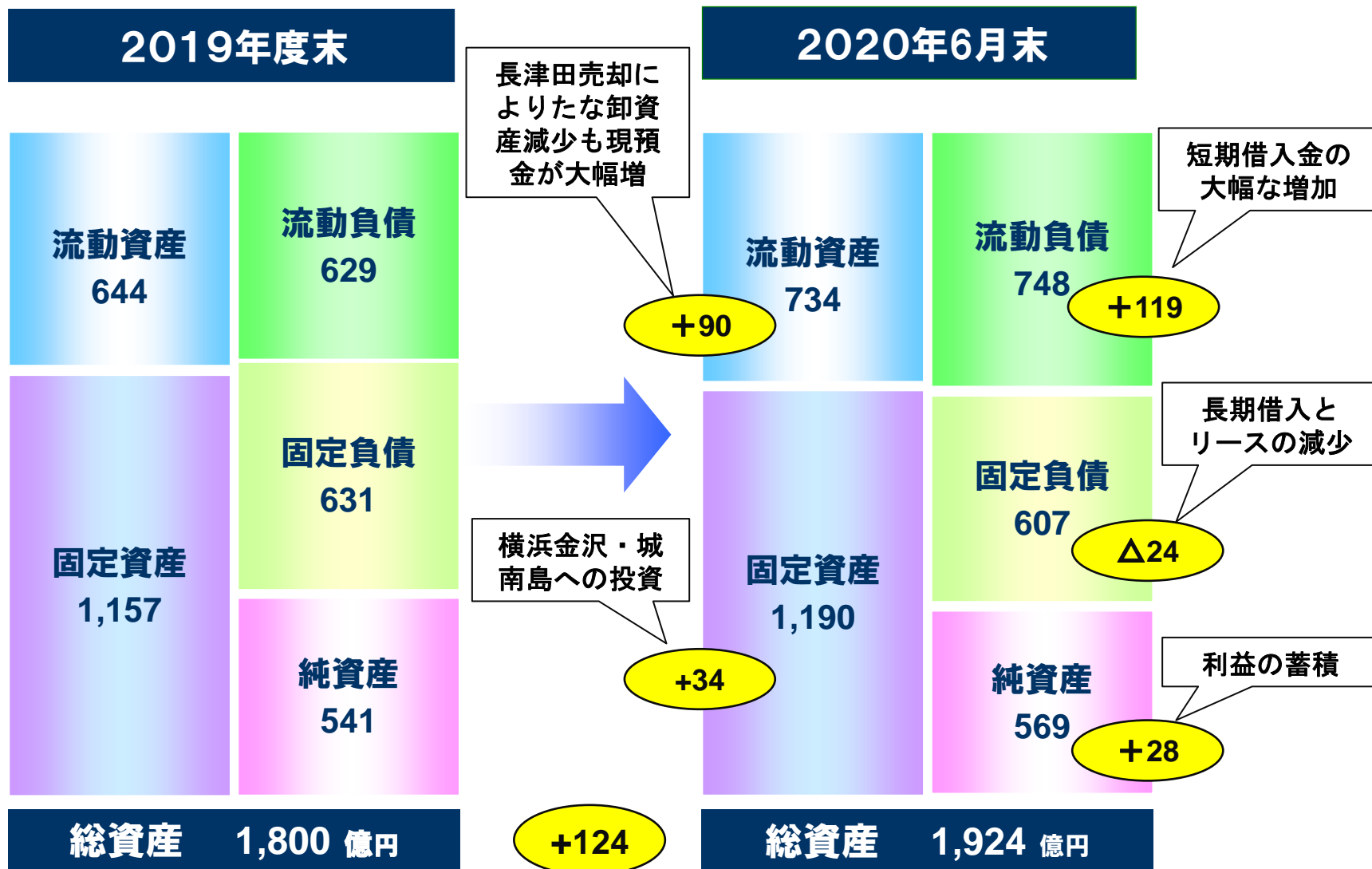
連結売上高 (単位：百万円)



連結営業利益 (単位：百万円)



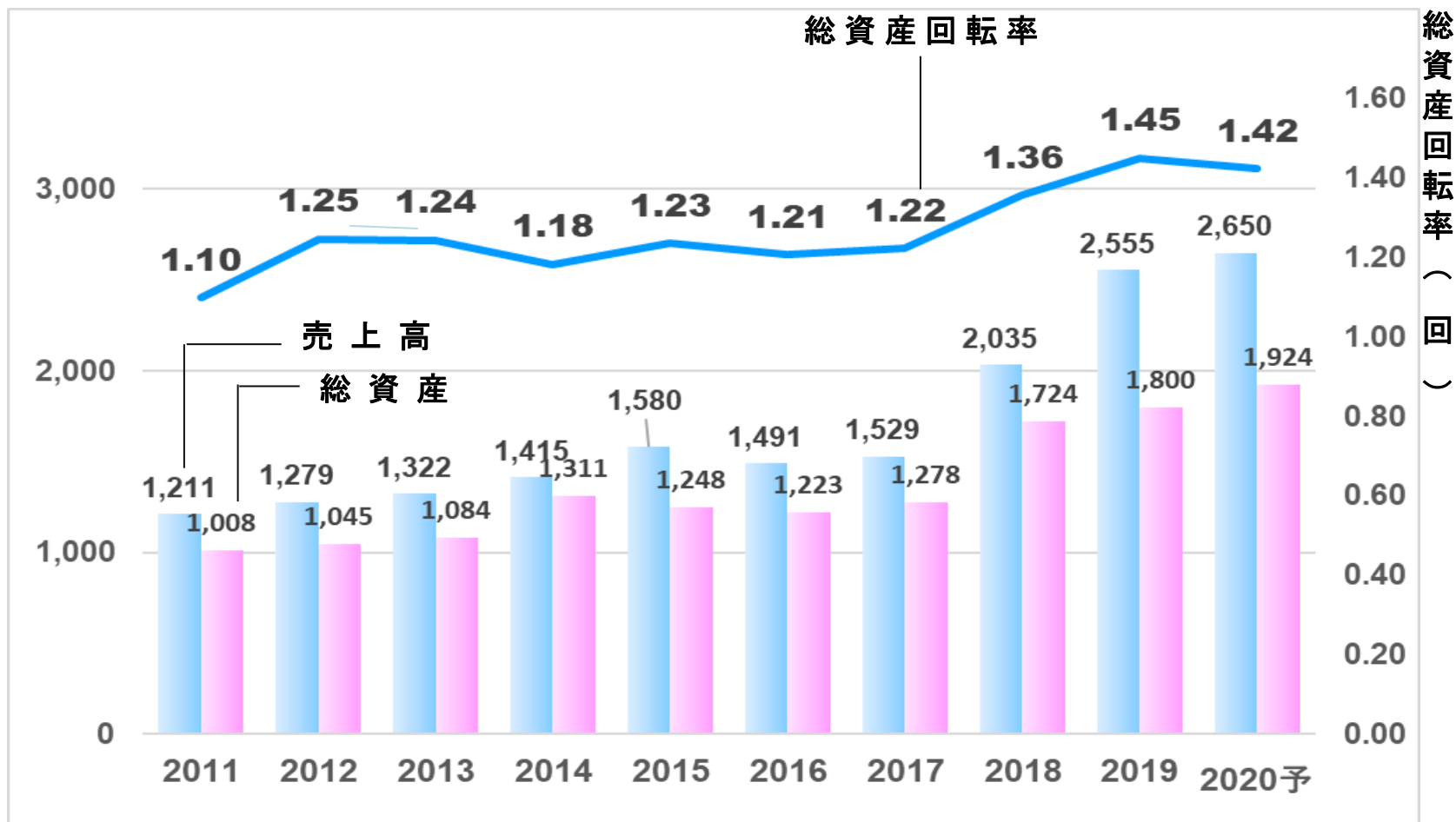
連結貸借対照表 [対前期末比]



資産効率指標 [総資産回転率]

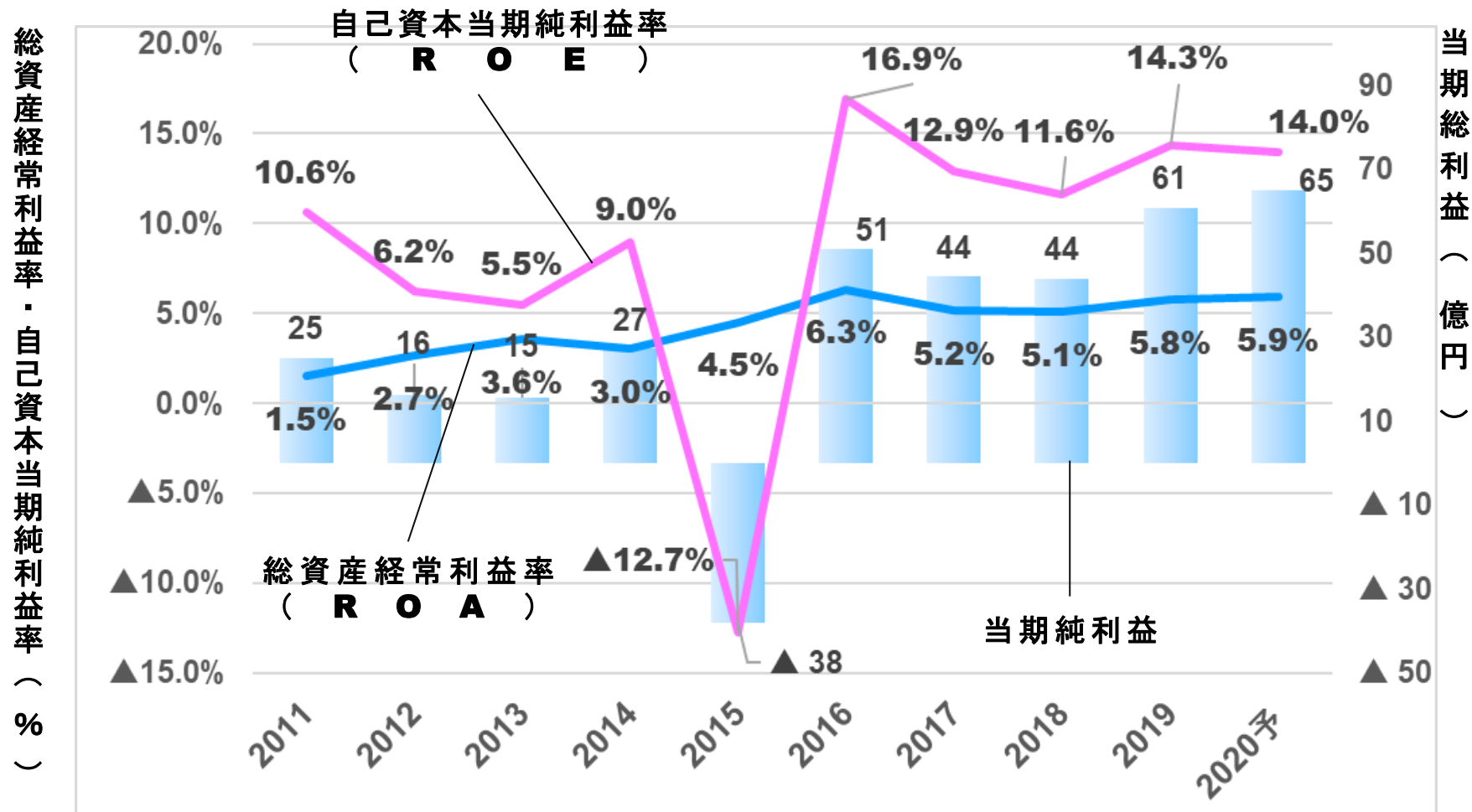
M&Aやコロナ対応で資産規模が拡大、総資産回転率は低下

売上高・総資産（億円）



※ 2020年度の売上高は通期予想値を使用

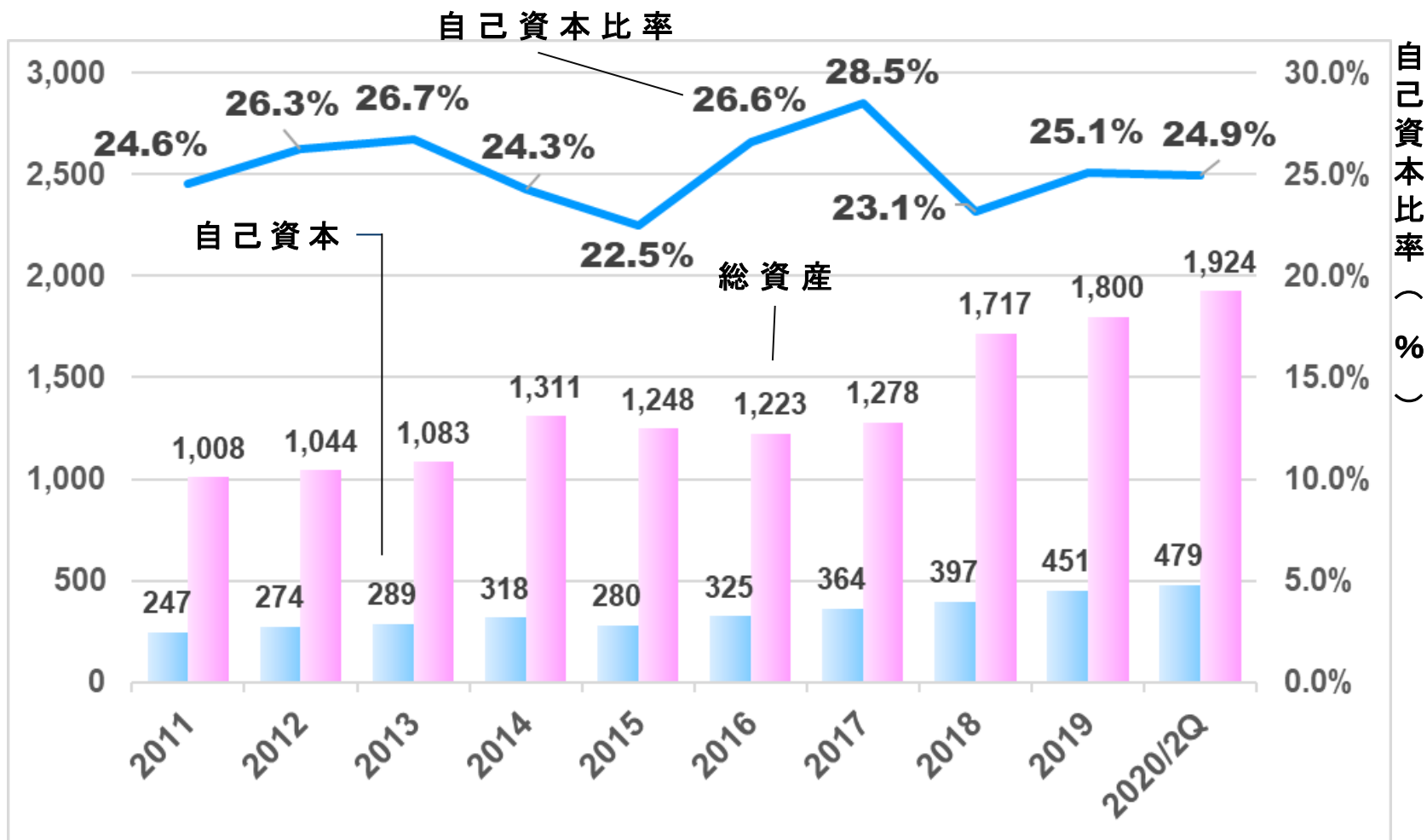
V字回復後、ROEは10%超の高い水準を継続中



※ 2020年度の経常利益、当期純利益は通期予想値を使用

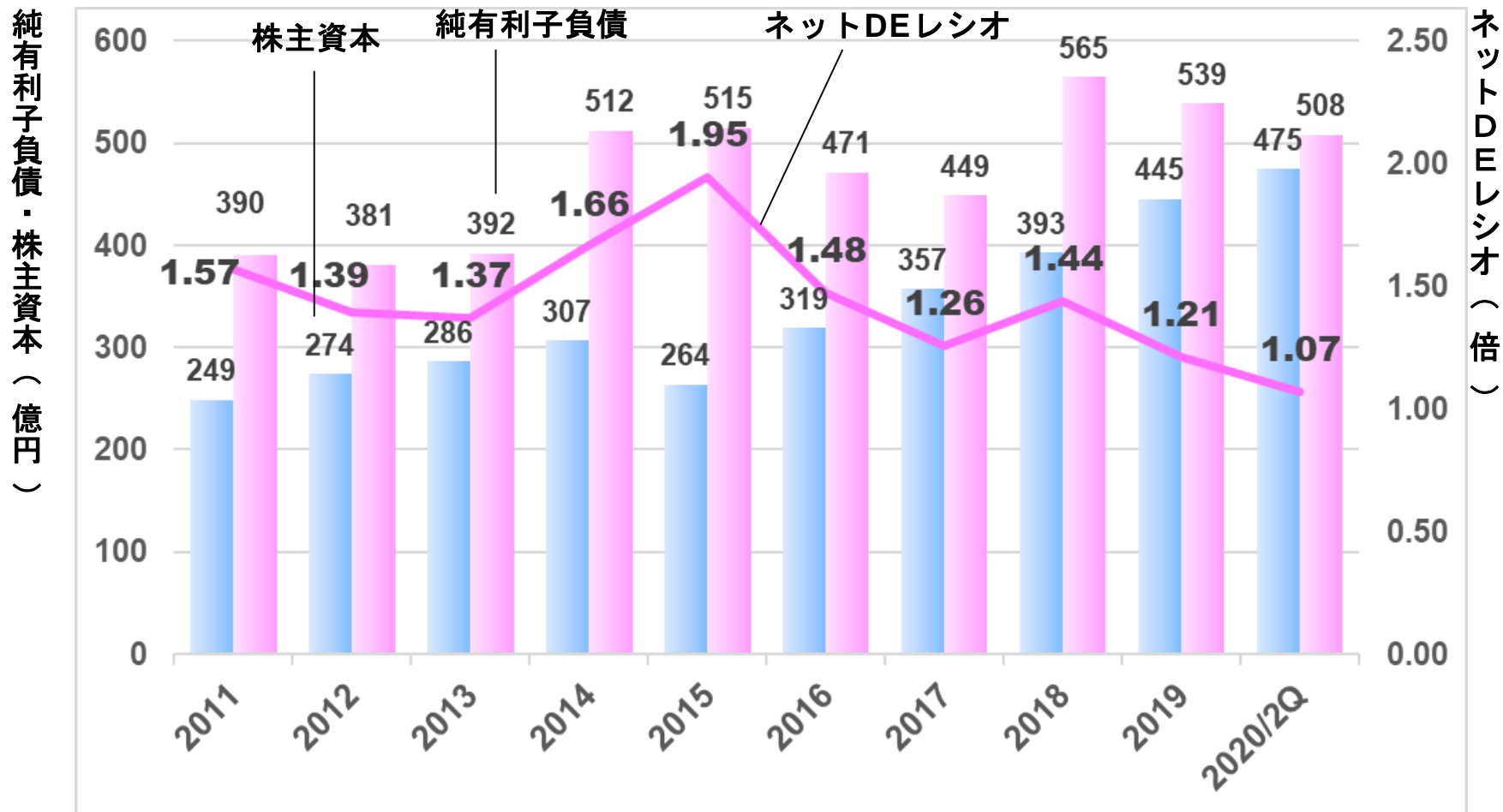
コロナ対応で手元資金を積み上げたためわずかに低下

総資産・自己資本（億円）



自己資本比率 (%)

2015年度のピーク以降、利益蓄積により低減傾向



(単位:百万円)

	2019年度		2020年度			
	実績値	構成比	予想値	構成比	増減額	増減率
売上高	255,548	100%	265,000	100%	9,451	3.7%
営業利益	10,176	4.0%	11,200	4.2%	1,023	10.1%
経常利益	10,172	4.0%	11,000	4.2%	827	8.1%
当期純利益	6,079	2.4%	6,500	2.5%	420	6.9%

(単位:百万円)

セグメント		19年度通期 実績値	20年度通期		
			予想値	増減額	増減率
物流	売上高	240,772	248,000	7,228	3.0%
	営業利益 利益率	6,278 2.6%	6,600 2.7%	322	5.1%
不動産	売上高	7,802	9,500	1,698	21.8%
	営業利益 利益率	3,787 48.5%	4,500 47.4%	713	18.5%
その他	売上高	6,972	7,500	528	7.6%
	営業利益 利益率	186 2.7%	300 4.0%	114	61.3%

※上記各セグメント営業利益の合計額に連結消去等の調整をした結果が損益計算書の営業利益となります。

※不動産の売上高、営業利益には物流施設の流動化金額を含みます。

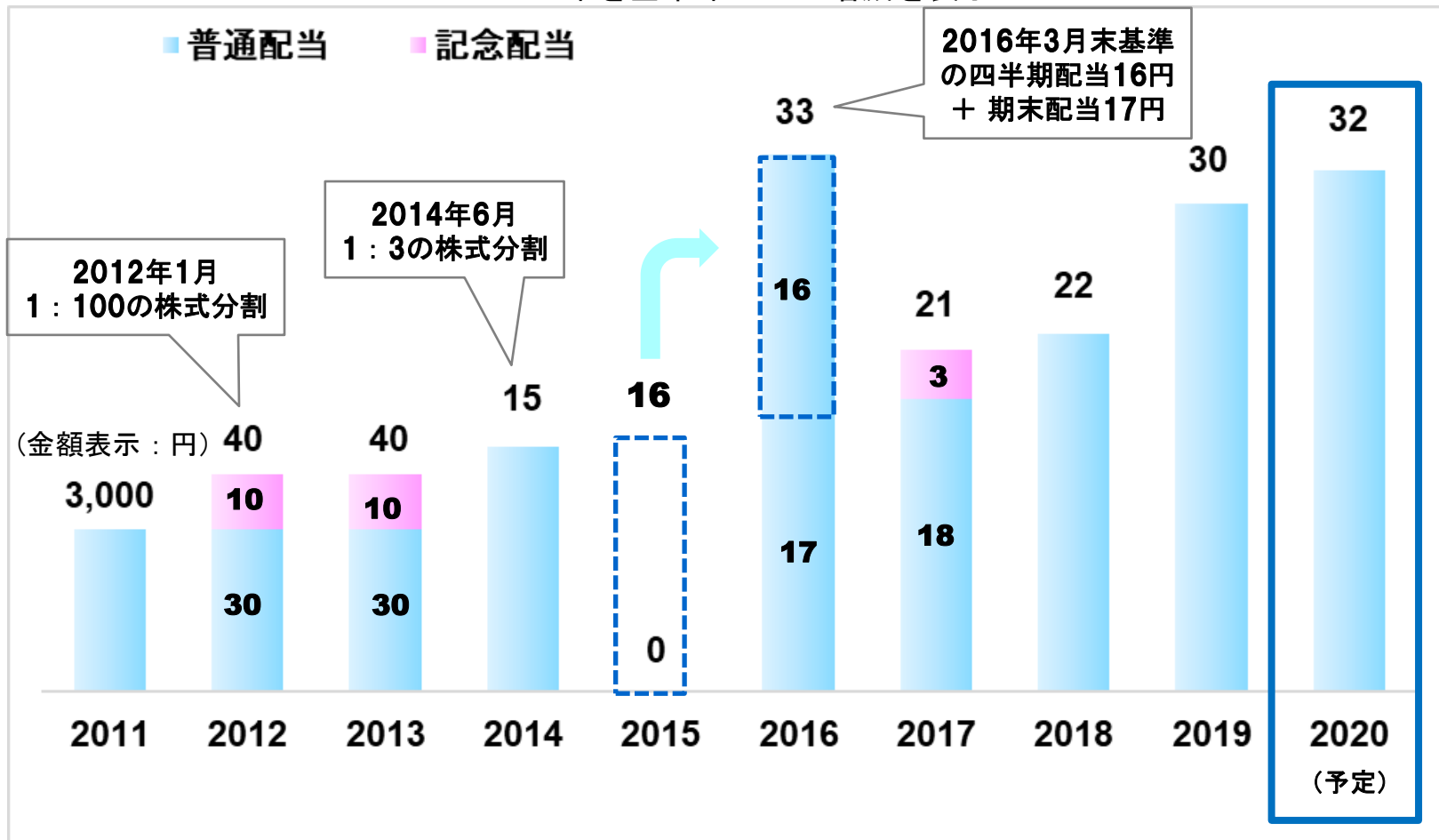
※2019年の調整額は△75百万円、2020年の調整見込額は△200百万円です。

※予想値は2020年2月10日に発表したものです。

株主還元 [1株あたり配当金の推移]

1株あたり配当は過去10年で実質3倍超と、株主還元を強化

※ 2011年を基準年として増減を表示



SBSグループの成長戦略

代表取締役 鎌田 正彦

- 1月：東京大学に「先端物流科学寄附研究部門」を設置
- 2月以降：新型コロナウイルス対応
- 3月：「長津田物流センター」信託受益権譲渡
- 3月：「日本物流未来ファンド」創設
- 4月：組織改編、IT・LT部門強化
- 5月：東芝ロジスティクス株式会社の株式取得を発表

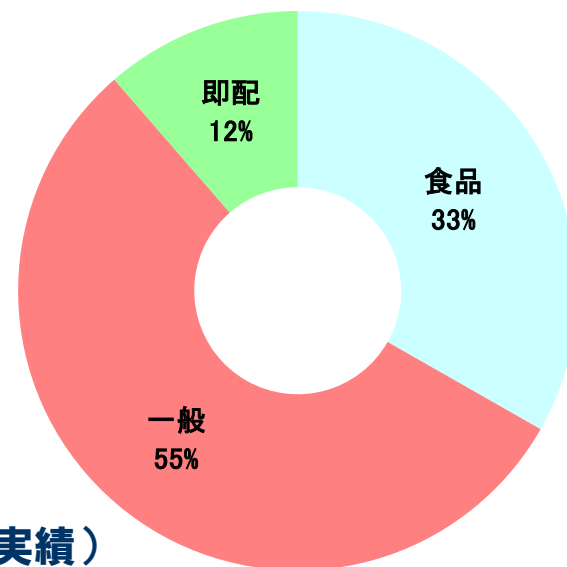


東京大学「先端物流化学寄附研究部門」
東京大学基金から寄附企業3社への贈呈式（1/10）

■ 物流事業への影響

- 業務縮小：企業間物流、オフィス向け配送、百貨店向け、レジャー・イベント関連 etc.
 - 需要拡大：個人向け、生活必需品系ビジネス(EC、生協関連、食品スーパー、ホームセンター、ドラッグストア etc.)
- ➔ 人員再配置、他業種から人材・車両確保、雇用環境改善(一時金支給含む)などで対応

荷主の多様化により、新型コロナショックによる業績の振れ幅を最小限に留めた



グループ物流事業のポートフォリオ(19年12月期実績)

発行済株式総数の66.6%取得（今秋予定）



- 2020年12月末：B/S連結
- 2021年 1月～：P/L連結

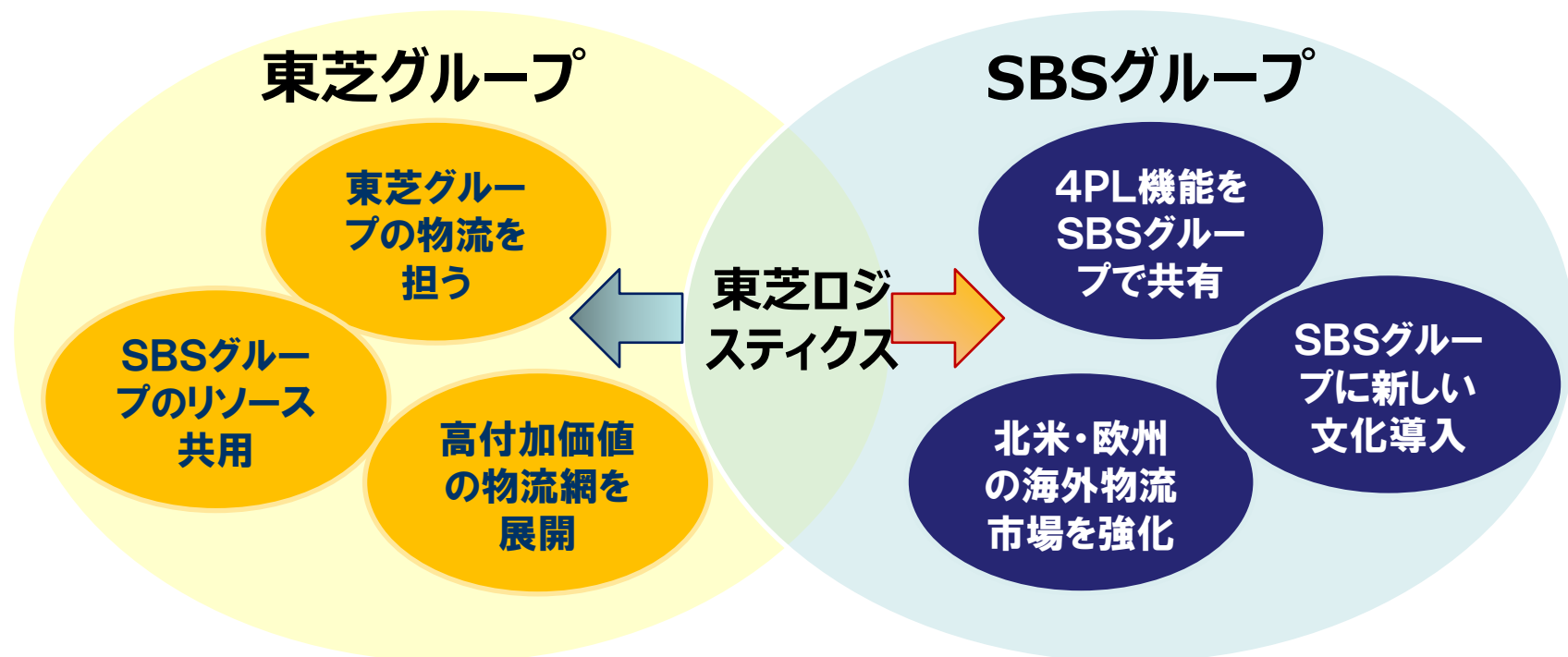
東芝ロジスティクス(TLOG)

- 電力設備等の重量物、医用機器、半導体等の輸送に加え、梱包業務、輸出入関連業務を手掛ける
- 海外9ヶ国に14社の現地法人
- 3PL事業に加え、委託元企業の物流戦略企画・推進を担う「4PLカンパニー」

■ 株式取得のメリット

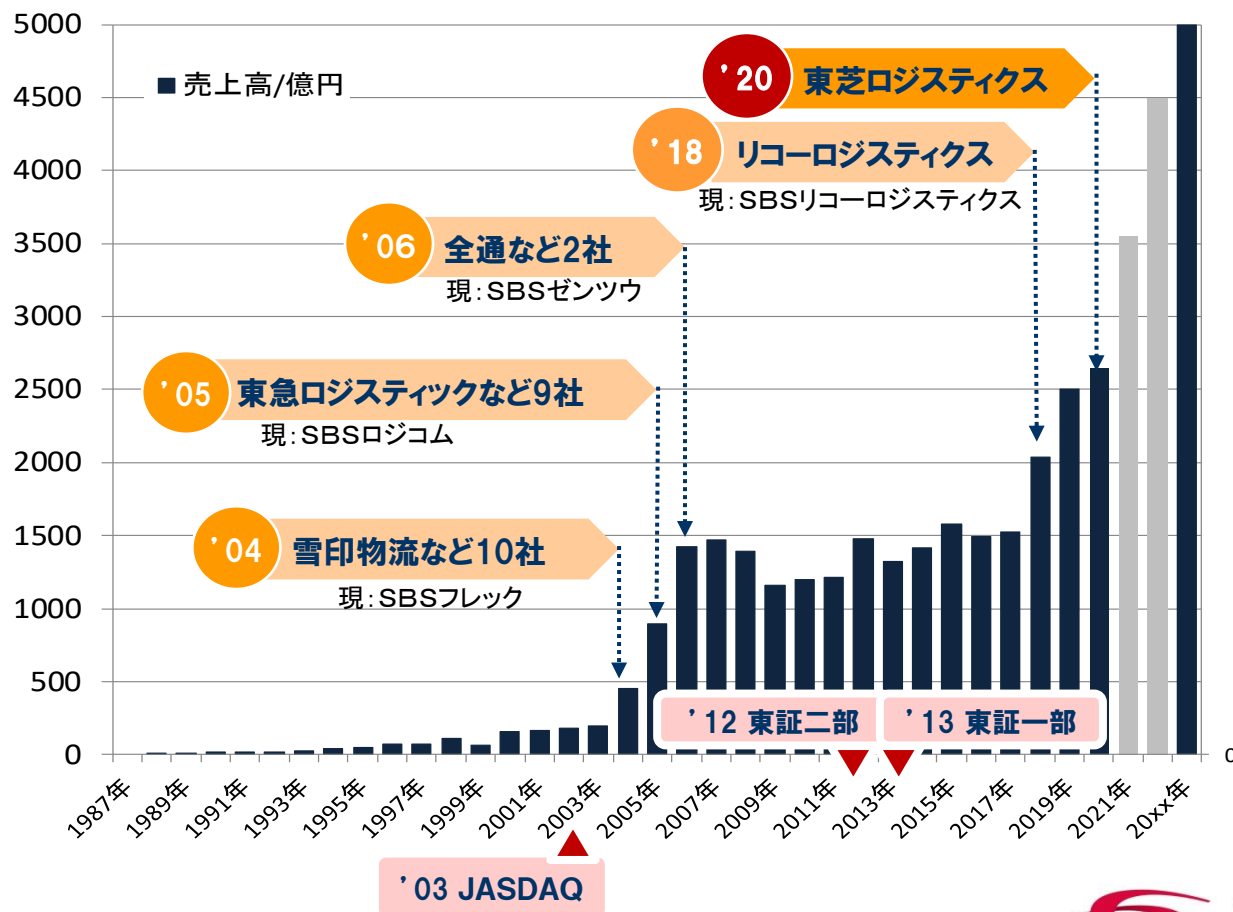
4PL事業のノウハウ獲得、サービスラインナップ・製品ミックス拡充、
拠点集約等によるスケールメリット、海外ネットワーク強化

➡ 物流サプライチェーンをさらに強固にサポート



PMIを通じた、確実な成長を実現

- 安易なリストラを回避し、人材再配置・リソースの再配分など、長期視点での構造改革を通じて業績を伸長



■ SBSリコーロジスティクスのPMI進捗

① 昨年までの実績

- 社名変更
- 本社オフィス統合
- 国内営業体制の改組
- 新拠点開設(福岡、愛知)
- グループ内紹介による新規案件

② 今期以降の取り組み

- IT・LT部門のグループ一体化
- 基幹システムの統合
- 地域子会社の統合
- 海外営業体制の改組
- SBSロジコムとの3PL拠点協働運営(城南島、横浜金沢)

③ 実施継続

- 海外既存拠点の統合(香港、ベトナム、タイ)
- 宅配事業の地方展開
- 物流インフラ(物流施設、車両)の相互活用
- グループ内人材交流

東芝ロジスティクスにおいても、3年スパンで同様のPMI活動を実施予定

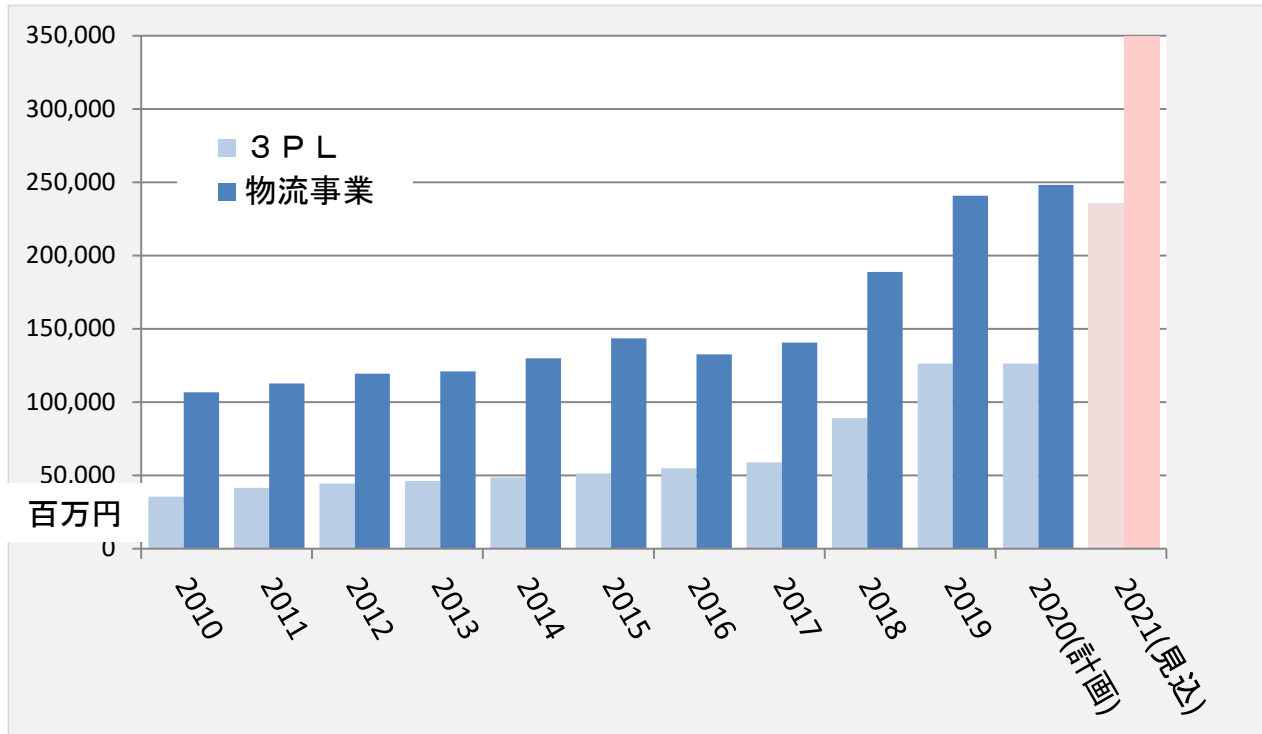


グループ内のリソース活用でパフォーマンスを最大化

■ 3PL事業国内大手事業者の一角へ

3PL事業の割合は、SBSリコーロジスティクスのフル連結後に過半超、東芝ロジスティクス連結以降は6～7割となる見込み

【売上高推移】



■ SBSグループ各社の既存ネットワークを基軸に、 複数EC企業様のBtoB宅配事業を推進中

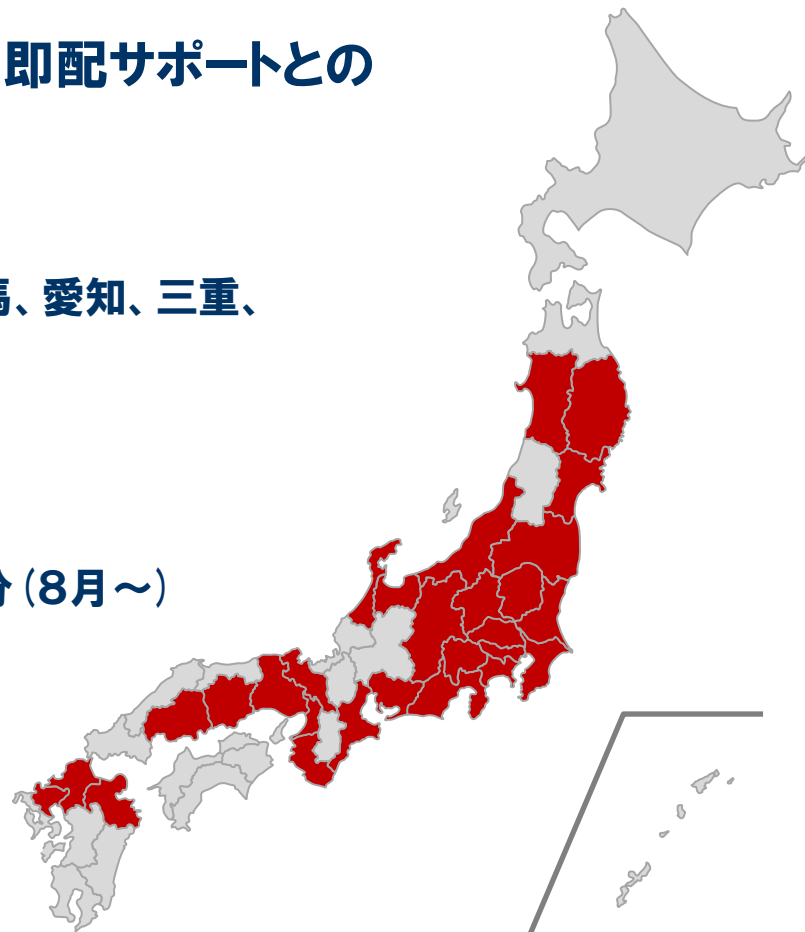
● SBSリコーロジスティクスとSBS即配サポートとの 協働運営

➢ 2019年までの展開エリア

- 宮城、福島、茨城、栃木、群馬、愛知、三重、
大阪、兵庫、広島

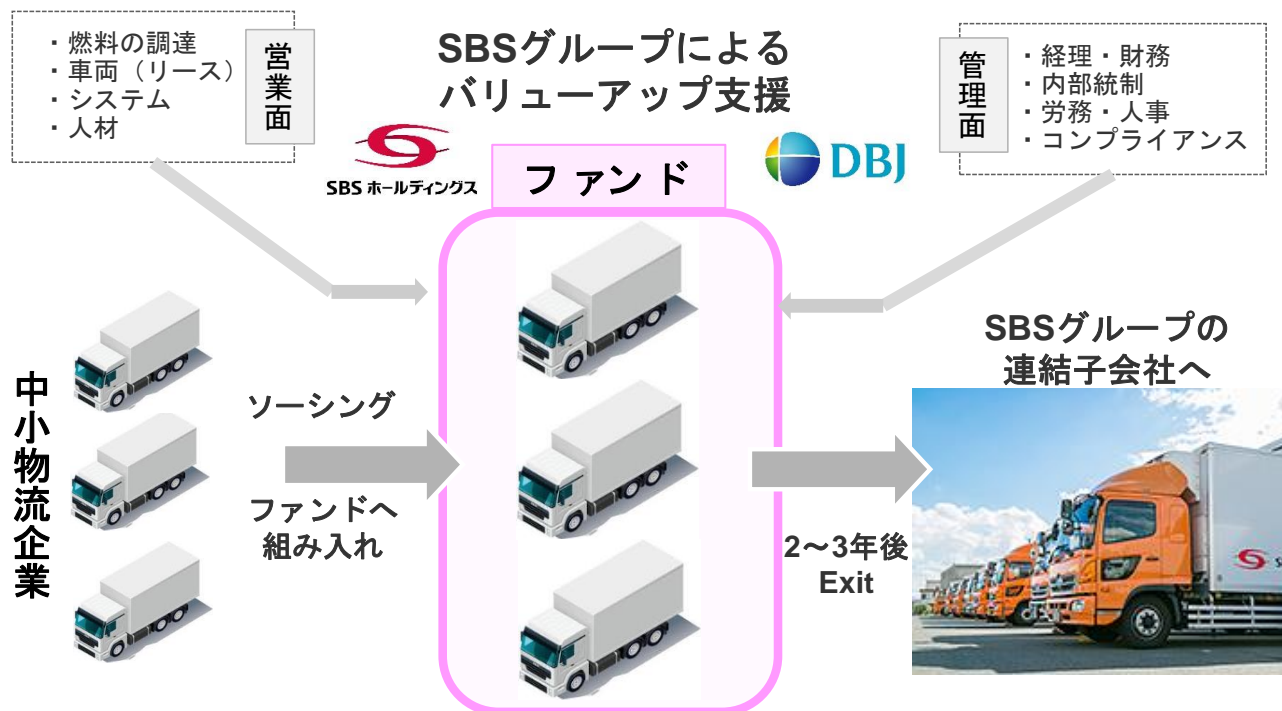
➢ 2020年からの展開エリア

- 兵庫 (5月～)
- 滋賀、京都、福岡、佐賀、大分 (8月～)



■ 新規ネットワークの拡大

- 日本物流未来投資ファンド …第1号案件契約に向け要件精査中



- YCお届け便(読売新聞社との共同配送網)
…都内23区全域へ配達エリア拡大予定

■ 開発中

● (仮称) 野田瀬戸物流センター

- 敷地面積：約1.9万坪
- 延床面積：約7.0万坪
 - A棟4.0万坪
 - (‘21年着工予定)
 - B棟3.5万坪：計画中



● (仮称) 横浜金沢物流センター

- 敷地面積：8,000坪
- 延床面積：約1.6万坪
- 着工：2020年2月
- 竣工：2021年7月(予定)



■ 計画中(土地取得済)

- 愛知県一宮市(9,000坪)
- 千葉県富里市(15,000坪)


■ 長津田物流センターの売却完了

- 3回分割(18年30%、19年30%、20年40%)
合計譲渡価額179億円、営業利益81億円



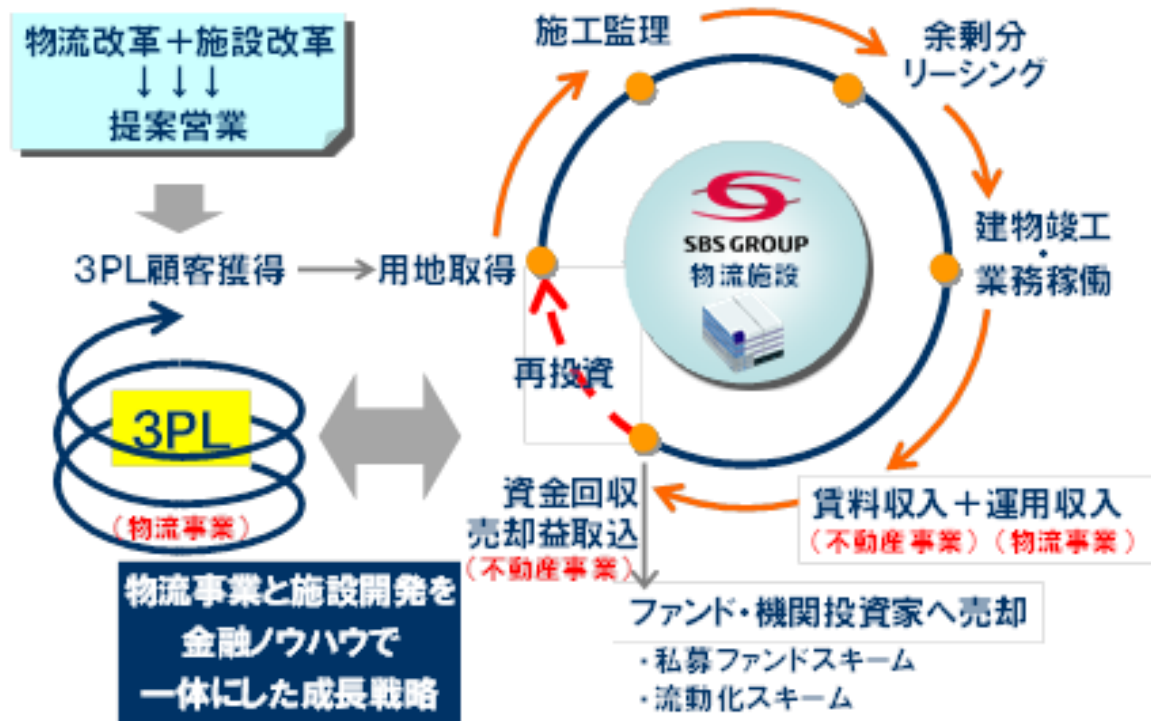
- 敷地面積: 14,392坪
- 延床面積: 13,235坪
- 主要顧客: 飲料メーカーへ賃貸
※不動産(賃貸)事業

■ 今後の候補物件

南港物流センター	2022年以降の候補
 <ul style="list-style-type: none">●敷地面積: 7,519坪●延床面積: 18,357坪 (低温庫3,000坪含)●主要顧客: 百貨店、ドラッグストア等 ※自社物流事業 (SBSロジコム(株)南港物流センター支店)	<ul style="list-style-type: none">▪ 横浜市港南区 (SBSロジコム(株)杉田物流センター支店)▪ 習志野市 (SBSロジコム(株)京葉支店)▪ 越谷市 (SBSロジコム(株)越谷支店)

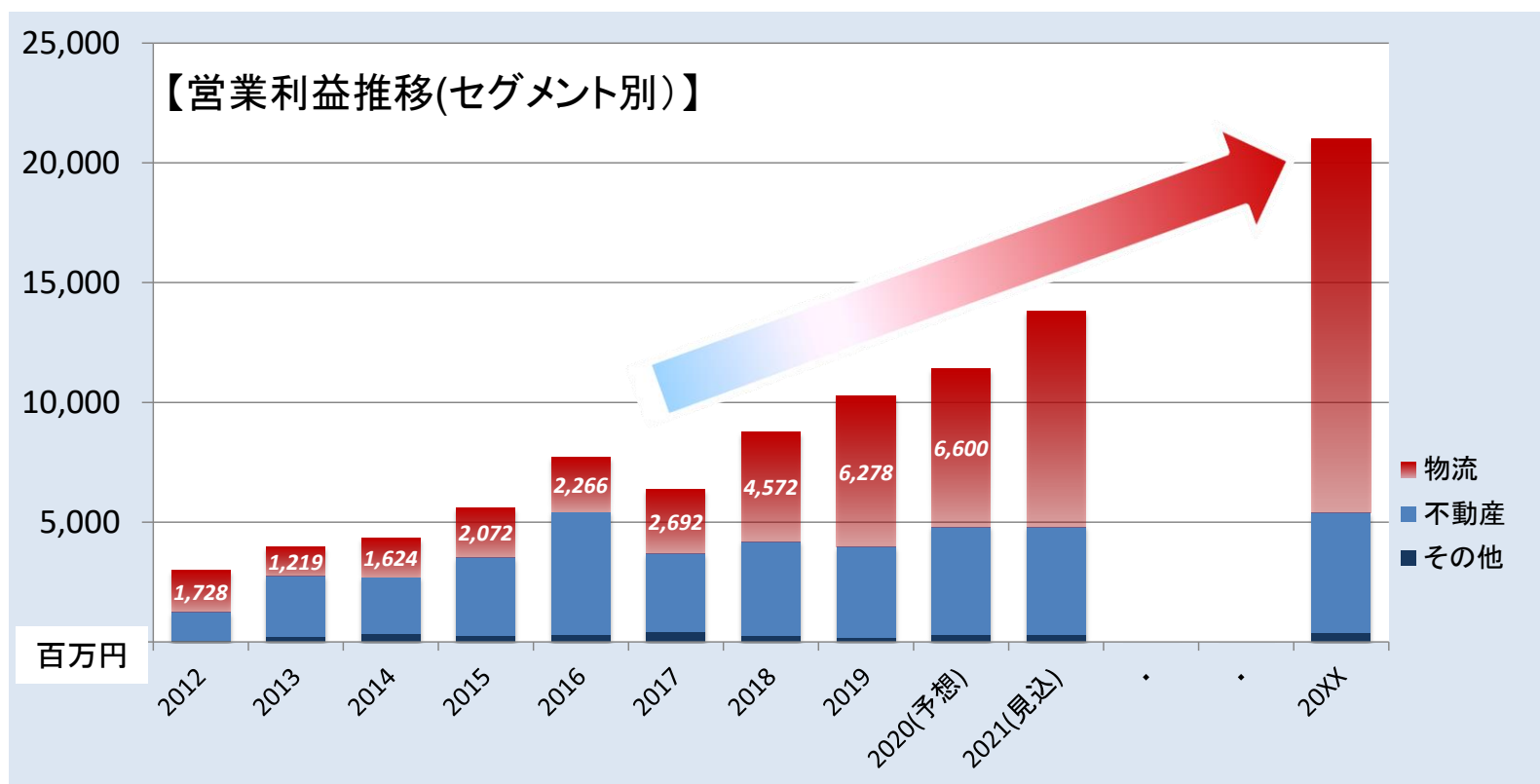
■ 物流施設開発の市場評価が向上

- 物件の大型化傾向 …1万坪クラスから2万坪クラス以上へ
- 開発エリアの広がり …首都圏から中部、関西へ



■ 物流事業がグループの成長をけん引

物流施設開発は一定水準を維持し、3PL拡大を支える





SBS GROUP

For Your Dreams.